

飛翔する監督 from SKIPシティ国際Dシネマ映画祭

監督名/映画祭ノミネート・受賞作品名	活躍の概要
<small>くまさかいずる</small> 熊坂出監督 第2回映画祭(2005) 短編部門・最優秀作品賞 『珈琲とミルク』	『パーク アンド ラブホテル』が第58回ベルリン国際映画祭(2008年)最優秀新人作品賞を受賞。 『リルウの冒険』が第6回シネマデジタルソウル(2012年)にて、レッドカメレオン賞(グランプリ)、ブルーカメレオン賞(国際批評家賞)をダブル受賞。日本人初の快挙を成し遂げた。 『プリテンダーズ』(gaie配給)が2021年10月16日公開。
ジャ・ジャンクー監督 第2回映画祭(2005) 長編部門・ノミネート 『世界』	『長江哀歌』がベネチア国際映画祭(2006年)金獅子賞受賞。『無用』がベネチア国際映画祭(2007年)最優秀ドキュメンタリー賞受賞。 『帰れない二人』(ピタース・エンド 配給)が第70回カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式出品。2019年9月公開。
スサンネ・ビア監督 第2回映画祭(2005) 長編部門・最優秀作品賞 『ブラザーズ』	『未来を生きる君たちへ』が第83回アカデミー賞(2012年)最優秀外国語映画賞、第68回ゴールデングローブ賞(2011年)最優秀外国語映画賞を受賞。
<small>いしかわけい</small> 石川慶監督 第6回映画祭(2009) 短編部門・ノミネート 『It's All in the Fingers』	長編映画デビュー作品『愚行録』が、第73回ヴェネツィア国際映画祭(2016年)オリゾンティ・コンペティション部門に選出。2017年度新藤兼人賞銀賞受賞。 『蜜蜂と遠雷』(東宝配給)が2019年10月公開。第43回 日本アカデミー賞(2020年)優秀作品賞など7部門、第74回毎日映画コンクール日本映画大賞、第43回山路ふみ子映画賞作品賞、第44回報知映画賞作品賞など多数受賞。『Arc アーク』2021年6月公開(ワーナー・ブラザーズ映画配給)、最新作『ある男』が2022年秋公開予定(松竹配給)。
<small>しらいしかずや</small> 白石和彌監督 第6回映画祭(2009) 長編部門・SKIPシティアワード 『ロストパラダイス・イン・トーキョー』	『凶悪』が第37回日本アカデミー賞(2014年)優秀作品賞、優秀監督賞、優秀脚本賞、優秀助演男優賞受賞。 2017年、『彼女がその名を知らない鳥たち』でブルーリボン賞監督賞に輝くと、2018年にも『孤狼の血』などで同賞を受賞し、史上3人目の快挙を達成した。 『孤狼の血』が第42回日本アカデミー賞(2019年)優秀賞12部門、うち最優秀賞4部門を受賞。 『麻雀放浪記2020』(東映配給)が2019年4月、『凧待ち』(キノフィルムズ配給)が同年6月、『ひとよ』(日活配給)が同年11月公開。『孤狼の血 LEVEL2』(東映配給)が2021年8月公開。第45回日本アカデミー賞で監督賞など13部門で受賞。最新作『死刑にいたる病』2022年5月公開(クロックワークス配給)。
デクスター・フレッチャー監督 第9回映画祭(2012) 長編部門・ノミネート 『ワイルド・ビル』	2018年、途中降板した監督の後を受け製作した『ボヘミアン・ラブソディ』が世界中で大ヒット。第91回アカデミー賞(2019年)で作品賞を含む5部門にノミネートされ、主演男優賞、編集賞、録音賞、音響編集賞の最多4冠を獲得。第42回日本アカデミー賞(2019年)最優秀外国作品賞を獲得するなど、国内外の映画賞を数々受賞。 2019年5月『ロケットマン』(東和ピクチャーズ配給)が米英で公開、日本では同年8月公開。第77回ゴールデングローブ賞 ミュージカル・コメディ部門で主演男優賞、主題歌賞を受賞。
<small>なかのりょうた</small> 中野量太監督 第9回映画祭(2012) 長編部門・監督賞、SKIPシティアワード 『チ子を撮りに』	『湯を沸かすほどの熱い愛』が、第90回米アカデミー賞(2018年)外国語映画賞日本代表選出。第40回日本アカデミー賞(2017年)にて6部門で優秀作品賞にノミネートされるなど、国内の映画賞を数々受賞。 『長いお別れ』(テレビ東京開局55周年記念作品/アスミック・エース配給)が2019年5月公開。第11回TAMA映画賞で最優秀作品賞、最優秀男優賞、最優秀女優賞の3部門受賞。『浅田家!』(東宝配給)が2020年10月公開。第36回ワルシャワ国際映画祭国際コンペティション部門で最優秀アジア映画賞を受賞。
<small>まかべゆきのり</small> 真壁幸紀監督 第11回映画祭(2014) 短編部門・ノミネート 『時のカケラ』	長編デビュー作『ボクは坊さん。』が第49回ヒューストン国際映画祭のプラチナアワード(長編映画部門最高賞)とシカゴ・アジア・ポップアップ・シネマのオーディエンス・チョイス・アワードを受賞。 2015年10月公開(フィルムファントム配給)。『すくってごらん』2021年3月公開(ギグリーボックス配給)。
<small>みさとともき</small> 見里朝希監督 第13回映画祭(2016) アニメーション部門奨励賞受賞 『あたしだけをみて』	パペット・アニメ『マイリトルゴート』が第24回学生CGコンテスト(2018年)のアート部門・エンタテインメント部門の最終週賞のダブル受賞や、イタリアの「ASFF: As Film Festival 2018」の短編アニメーション部門最優秀賞などを受賞し、大きな話題となる。2019年4月公開。 2021年1~3月に放送・配信され、SNSを中心に話題を集めたストップモーションアニメ「PUI PUI モルカー」の劇場版『とびだせ! ならせ! PUI PUI モルカー』が2021年7月公開(東宝映像事業部配給)。
<small>うえだしんいちろう</small> 上田慎一郎監督 第13回映画祭(2016) 短編部門・奨励賞 『テイク8』	『カメラを止めるな!』が、予算300万円のインディーズ映画ながらSNSのロコ効果で全国公開へと拡大し、国内及び海外の映画賞を数々受賞。2018年の邦画興行収入ランキング7位(31.2億円)というヒット作品となった。第42回日本アカデミー賞最優秀編集賞、話題賞等9部門など多数の映画賞を受賞。 2019年の本映画祭オープニング作品『イソップの思うツボ』(アスミック・エース配給)を浅沼直也監督、中泉裕矢監督と共に監督し、同年8月公開。『スペシャルアクターズ』(松竹配給)が同年10月公開。 同年、映像関係者としては38年ぶりとなる滋賀県文化奨励賞を受賞。 『ポプラン』2022年1月公開(エイベックス・ピクチャーズ配給)。
<small>そのだしん</small> 園田新監督 第14回映画祭(2017) 短編部門・ノミネート 『DEPARTURE』	2017年、新作長編映画『リバースダイアリー』を製作。国内外20を超える映画祭に招待され、最優秀作品賞を含む11の賞を獲得。 2018年5月公開(CINEAST配給)。
<small>かたやま しんぞう かんたく</small> 片山慎三監督 第17回映画祭(2018) 長編部門・優秀作品賞・観客賞 『岬の兄妹』	『岬の兄妹』がインディーズ映画としては異例の79館で公開され、世界最古クラスの映画賞「キネマ旬報ベスト・テン」では2019年日本映画の12位となるなど称賛を浴びた。第41回ヨコハマ映画祭森田芳光メモリアル新人監督賞受賞。 埼玉県などが製作協力して製作した、『さがす』(アスミック・エース配給)2022年1月に公開。第26回釜山国際映画祭ニューカレンツ(コンペティション)部門に出品。